

令和 2 年 12 月 28 日  
運 輸 安 全 委 員 会

## 12月4日に発生した日本航空機の航空重大インシデントに関する情報提供

運輸安全委員会は、令和2年12月4日に発生した日本航空所属ボーイング式777-200型JA8978の航空重大インシデントに関し、12月28日、国土交通省航空局へ情報提供を行いました。

### 1. 航空重大インシデントの概要

12月4日（金）11時51分頃、那覇空港発東京国際空港行きの同社904便・ボーイング777型機は、那覇空港の北約100キロメートル、高度約5,000メートルにおいて上昇中、左側のエンジンに不具合が発生したため、同空港に引き返した。到着後の点検で、同エンジンの破損が認められた。

### 2. 調査内容

これまでの調査の結果、以下の事実が判明した。（別添参照）

- ・ 左側エンジンのファンブレードが破損していた。
  - ・ ファンブレードの破損部及び機体の損傷状況は別添のとおりであった。
- ファンブレード破損の原因等については、今後詳細な調査を行う予定である。

#### 【問い合わせ先】

運輸安全委員会事務局 広報室 川島、渡部

電話 03-5367-5027（直通）FAX 03-3354-5215

ファンブレード（チタニウム合金製）は、エンジン毎に22枚装着されている。そのうち15番ブレードは中程から、16番ブレードは根元付近から破損していた。16番ブレードの破面には疲労破壊の特徴である貝殻状の模様（ビーチマーク）及び放射状の模様（ラジアルマーク）を認めた。15番ブレードの破面にこれらの模様は認められなかった。

エンジンの型式は、プラット・アンド・ホイットニー社製PW4074型で、左側エンジンのファンブレードの総使用時間は、43,060時間、総飛行回数は、33,518回であった。

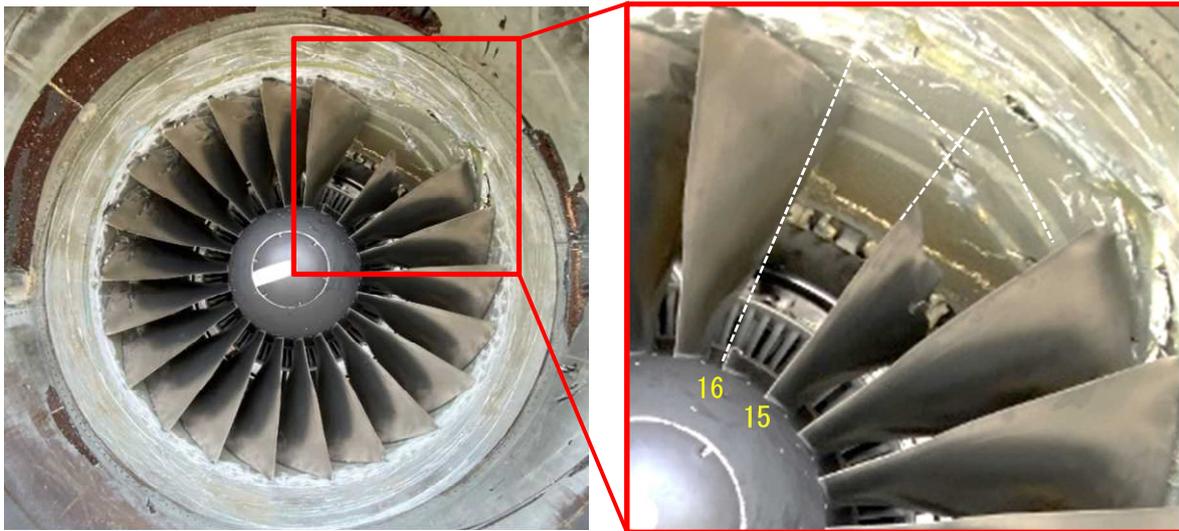


図1 左側エンジンインレット部



図2 ファンブレードの破損状況

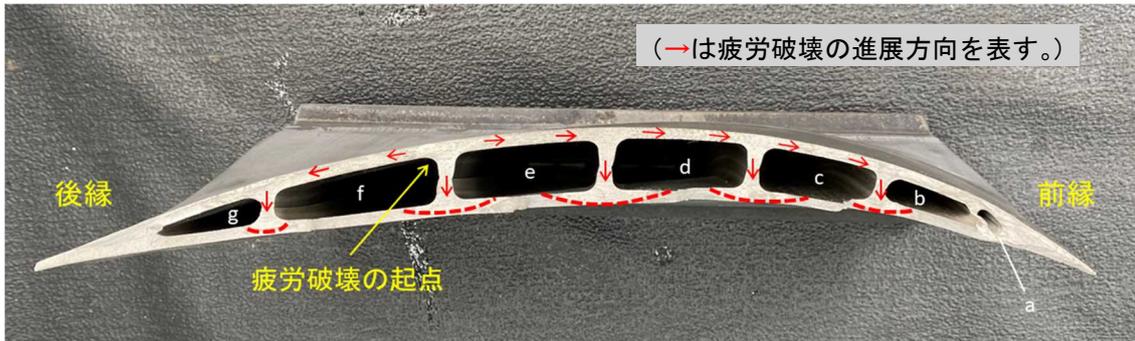


図3 16番ブレードの破面

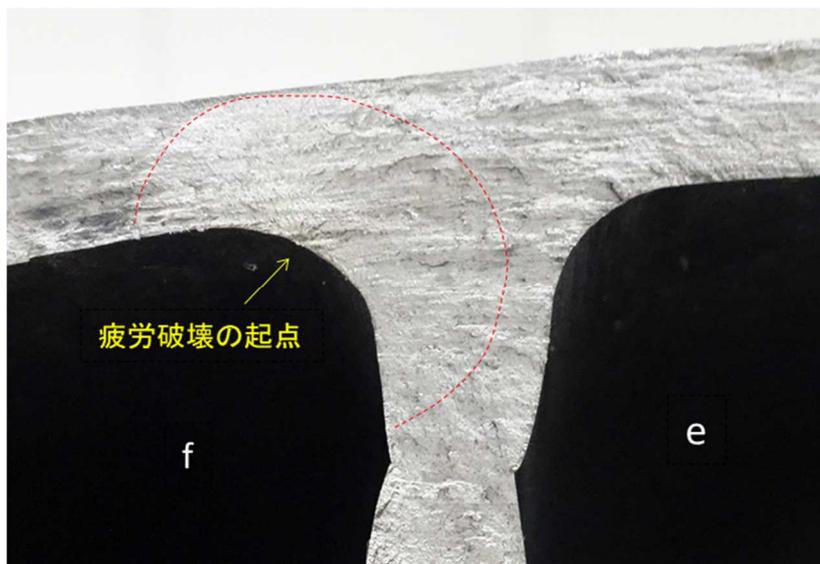


図4 16番ブレードの破面拡大写真

ファンブレードの他、機体（エンジン・カウル、水平尾翼、胴体）の損傷を認めた。

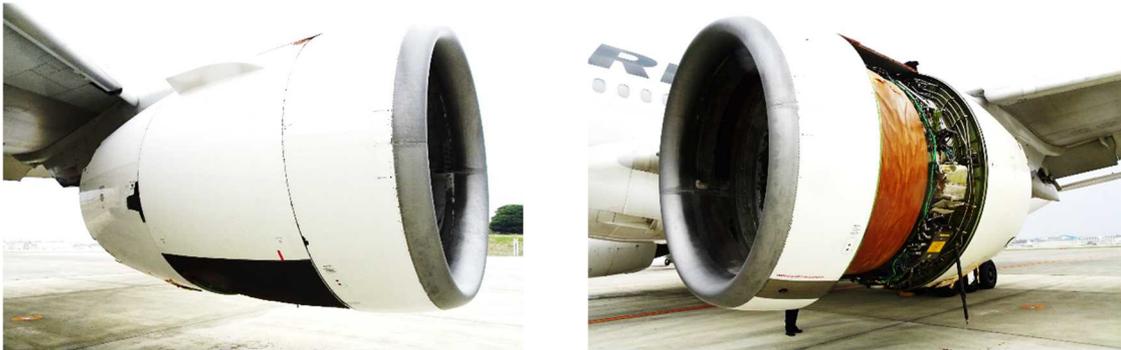


図5 エンジン・カウルの損傷状況

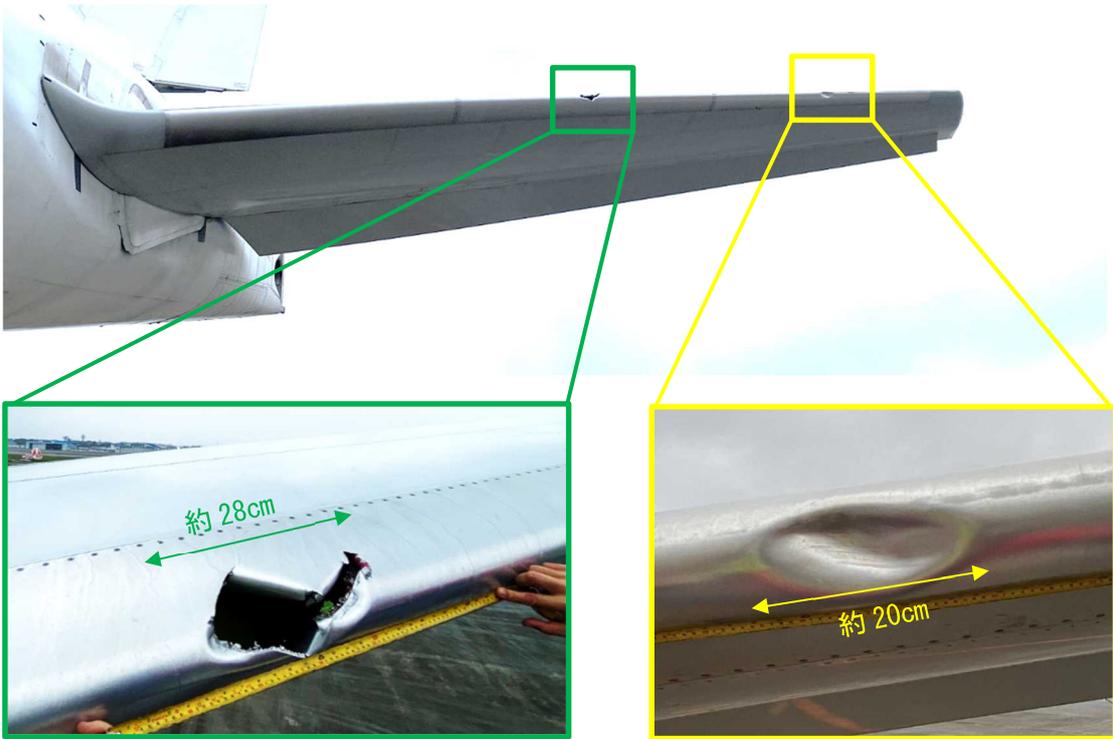


図6 水平尾翼の損傷状況

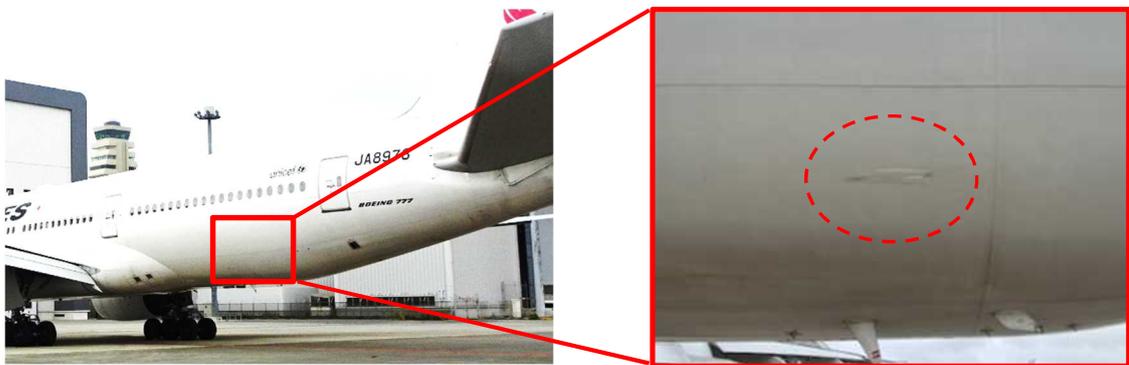


図7 胴体の損傷状況